



# 国労がJR東日本・貨物で入社歓迎行動!



(組合員の購読料は組合費に含まれます)  
港区新橋5-15-5 交通ビル  
国労東日本本部  
発行責任者 伊藤秀樹  
編集責任者 伊藤隆夫

No. 683 定価 20円  
2009年  
4月 15日

国労東日本 軟式野球大会  
5月14、15日  
東京・大井野球場



4月1日、2009年度JR東日本・貨物会社の入社式が行われ多くの新入社員がJR社員の仲間入りとなりました。  
国労は、この入社式に際し例年の歓迎行動を今年も取り組み、JR東日本入社式行動を東日本本部が埼玉県「さいたま市」にて、またJR貨物入社式行動を貨物協議会中心に東京「飯田橋」にてそれぞれ展開しました。  
今号は、①JR東日本・貨物の新規採用者「入社」歓迎行動報告  
②国労東北協議会「春闘」総決起集会報告 ③貨物「春闘」中央行動報告としました。

桜の花のシーズンには肌寒い「さいたま市」、2009年度JR東日本入社式が昨年に続き大宮ソニックシティで行われました。  
国労東日本本部は東京地本の仲間を中心に、「期待と不安」を胸に緊張の面持ちで会場入りする新入社員の皆さんへ歓迎行動を行いました。  
「入社おめでとうございます・国労です」の先輩社員の声に会釈をしながら多くの新入社員がティッシュやクリアーファイルを受け取り、中

ポテンシャル	190
鉄道事業	1568
医療	47
合計	1805
男性	1417
女性	388

2009年度 東日本↑ 貨物↓  
新入社員数

本社	34
北海道支社	45
東北支社	40
関東支社	102
東海支社	53
関西支社	102
九州支社	25
合計	401

「交通新聞」4/3号より掲載

にはクリアーファイルの中に入っている国労のメッセージを読みながら会場入りする姿もちらほらと・・・。  
多くは、入社式終了後「新白河」の研修センターでの新入社員教育へと直行し、その後各職場配属となります。  
現場では、机上教育では補えない想定外の問題

入社おめでとう  
国労です



研修がんばって下さい

# 貨物で入社歓迎行動!



【貨物入社式行動】  
貨物入社式は、4月1日にホテル・エドモントにおいて開催された。  
本年度の新規採用者は全国で401名(関東支社102名・東北支社40名)が入社式をおこなった。  
国労は入社式行動を行い、青年部を先頭に17名の組合員が参加し、ホテル入口前での横断幕・プラカードを掲げ気温の肌寒いなか国労加入へのアピール行動をおこなった。  
当日、参加した組合員からは「自分達が入社した時のことを思いだし、さすががしく感じた。組織拡大に全力で取り組む。」との声もだされた。

# 東北総行動 3/6 仙台

国労東北協議会と国労仙台地本は2009年春闘勝利に向けた取組みの一環として、仙台市内において大衆行動を展開。

3月6日には国労東北総決起集会（HP参照国労せんだい速報版2544号）を開催、翌7日には国労仙台総行動を開催した。



座り込み開始総行動は仙台市勾当台公園において十一時から開会、参加した組合員が整然と座り込みを開始した。労働運動が停滞している中で、少しでも市民にアピールし、運動と連帯の輪を広げよう」と訴えた。また集会へは政党・友誼団体・国労議員団など多くの方々に駆けつけて頂いたき、連帯と激励の挨拶を受けた。

込みを開始した。

同時にオープニングセレモニーとして「森風輝龍太鼓（しんぷうきりゅうだいこ）」の皆さんによる力強い太鼓演奏が披露され、総行動参加者への熱いエールが送られた。

主催者を代表して挨拶に立った橋本委員長は「空前の経済不況の中、企業は労働者の首切りで凌ぎ切ろうとし、その結果、我々労働者の生活はどん底に喘ぎ衣食住の生活基本権すら奪われている。労働運動が停滞している中で、少しでも市民にアピールし、運動と連帯の輪を広げよう」と訴えた。また集会へは政党・友誼団体・国労議員団など多くの方々に駆けつけて頂いたき、連帯と激励の挨拶を受けた。

## 09 各地で行動 春闘

## 貨物総行動 3/16 貨物本社前



であると強調された。

その後全水道会館前からJR貨物本社周辺をシユプレヒコールを繰り返しながらデモ行進を貫徹し大衆宣伝行動を展開した。併せて国土交通省要請行動も同時に取り組まれ引き続き09春闘勝利に向け奮闘することを確認し、3・16貨物中央行動（1日行動）を終結した。

本部は、3月16日09春闘での賃上げ獲得に向け貨物中央行動を展開し、総決起集会・学習会及びデモ行進に旅客の仲間を含め300名余が結集した。学習会では、「安全衛生と職場点検」がテーマとして講演され、職場点検運動は安全衛生活動の基本であり、安全衛生管理体制の点検など運動の大切さが重要

**「JRカード」は労働条件の一部 継続を願う全社員 家族の切実な声!**



「福利厚生制度」なのか「労働条件」なのかという位置づけについては、労使間で見解の隔たりはあるが、私達には労働条件の一

部である。今回の最大の廃止理由は、JR貨物の社員がJR旅客会社全線を半額で乗車できることが外にオープンになった場合、世間の理解が得られないことを最大の理由としています。交渉に於いても会社側は、廃止理由について事実に基づいた説明ができず、あくまでも想定される範囲での回答に終始した。

私たち貨物社員・家族にとって「JRカード」は、連続した賃金・期末手当の抑制による低賃金で大変厳しい生活の中で、家族との小さな旅行・単身赴任者の帰省等必要不可欠なものです。また、「半額補助制度に魅力を感じて入社したのに」「給料が低いのに、ますます働く魅力が薄れた」と貨物会社で働き続けることさえ疑問を感じているなど、何としても継続して欲しい率直な「声」となっている。

貨物会社は、3月15日を持って「JRカード」の廃止を一方実施してきたが、貨物会社に働く全ての社員と労働組合が廃止に反対をしている。国労は、4月1日から新たな制度として要求を会社に求めて全力で取り組んでいく。

### 国労が求める 具体的な要求

1. JR旅客線（乗車券・特急券等）利用額の50%を補助すること。
2. 月の補助金額上限は10万円とすること。
3. 使用回数は年間15回とすること。
4. 使用範囲は、社員と同居する親族とすることとし、利用資格者を提出すること。
5. 補助金は月々の賃金支払時に支給する。尚、月の15日までの補助金申請者には翌月の賃金支払日に支給し、16日以降の申請者に対しては、翌々月の賃金支払日に支給する。
6. 各現場に補助金整理簿を配布し、現場長の責任で補助金整理簿を管理する。
7. 社員はJR各駅で購入した乗車券・特急券をコピーし現場長等の承認を受ける。尚、現場長等は、補助金整理簿に記載し、当該社員と確認し残額等を確認する。
8. 単身赴任者には毎月2回分の帰省旅費を支給すること。
9. 制度は、2009年4月1日から実施すること。

がん予防検診から治療まで、とことん支援!

ご契約は満60歳まで

健康支援金プラス! 通院も入院も同額保障に!

がんの保障 + 病気・ケガの保障

新健康応援団MAX

アベニール株式会社

〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3F

TEL 03-3437-6810 FAX 03-3437-6822

アフラック (アメリカンファミリー生命保険会社)

東京第三営業本部 第三支社

〒163-0456 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル

TEL 03-3344-1899 Fax 03-3344-4036

資料請求いただいたお客様の個人情報の利用目的は、アフラックの各種商品やサービスの案内・提供・維持管理となります。

詳しくは、パンフレットや「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。